

中国における晩婚化と非婚化

Late marriage and less marriage in China

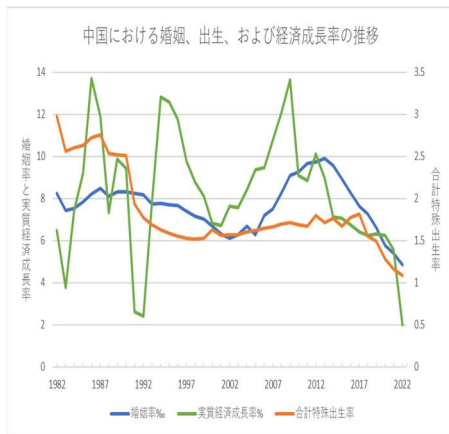
松倉力也（日本大学人口研究所）

Rikiya Matsukura (Nihon University Population Research Institute)

謝 餘慶（日本大学人口研究所）

Kevin Yu-Ching Hsieh (Nihon University Population Research Institute)

中国民政部のデータによれば、婚姻率（青色）は1982年から2005年まで緩やかに減少していたが、その後2013年までの約10年間で著しく増加し、その後2022年までに4.8%に低下している。このような婚姻率の変動は、中国社会における著しい変遷を物語っている。



特に、近年20年間の急激な変動は中国史上稀に見るものであり、社会の大局的変容を示唆している。このような結婚の動向には、経済成長が大きな影響を与えていると考えられ、特に、2000年以降は経済成長率（緑色）と婚姻率の間に相関が見られる。高度成長期の終焉により、若年層の結婚意欲が低下していると推測される。そして、このような婚姻率の低下や生活の不安定さは出生率（オレンジ色）の低下に影響を与えている可能性も考えられる。

中国では40年以上にわたる経済改革を通して、生活様式や価値観が大きく変化してきており、近年は若い世代の晩婚化や未婚化の傾向が強まっている。また、80年代に生まれた世代と比較すると、1990年以降に生まれた世代は高度な教育を受けつつも、就職や結婚に困難を感じる傾向が見られている。本報告では、各世代における結婚プロセスの違いを統計的に分析する。具体的には2010年から2021年に実施された中国総合社会調査（Chinese General Social Survey, CGSS）のデータを用いて各年における結婚パターンを分析する。

分析対象は初婚に限定し、その初婚に与える影響としては、職業、教育や持ち家の有無などの経済・社会的な要因はもちろん、婚前交渉に関する考え方や家事に対する男女の役割分担など社会文化や価値観の要因についても分析を試みる。分析の期間は婚姻の変動が大きくなっている最近の10年に焦点をあて、この期間の中国で起こった婚姻率の変化に関する分析結果を報告する予定である。